

michibiku

ユーザー操作マニュアル
～2026年1月23日リリース～

目次

本マニュアルでは、2026年1月23日にリリースした機能について
次の内容の操作方法等を記載します。

<Topics>

1. 実効性評価のレポートニング (分析)機能が拡充されました

1. 実効性評価のレポートニング (分析)機能が拡充されました

この項では、実効性評価の分析機能の利用方法についてご説明します。

※実効性評価はオプションでのご利用となりますのでご注意ください。

【補足】社内/社外役員の設定

実効性評価のレポート(分析)機能をご利用いただくには会社・メンバー設定内の『役職管理』で区分を「社内」「社外」のそれぞれに設定していただく必要があります。区分を「その他」に設定していると、一部分析結果がうまく反映されませんので、必ず変更してからご利用ください。



役職の編集

役職*


代表取締役

区分

その他

キャンセル 変更

2025-11-07



役職の編集

役職*

代表取締役

区分

その他

社内役員

社外役員

その他

2025-11-07

1. 実効性評価のレポートニング (分析)機能が拡充されました

今回のアップデートで実効性評価に新たに分析機能が拡充されました。分析機能では回答分布グラフや、「社内役員」「社外役員」でのスコア差分をワンクリックで可視化することができます。また、Word出力で、社内のレポートにも活用いただけます。

く アンケート「2026年実効性評価アンケート」

アンケートを修正する

設定 編集 プレビュー 回答進捗 集計結果 開示資料 課題管理

アンケート集計結果 - 分析

全体 個人 自由記述 比較 分析

1. アンケート結果の定量分析

質問一覧

平均値：高 平均値：低 標準偏差：大 標準偏差：小

質問番号	質問内容	平均値	標準偏差
1-24	株主（投資家）との対話の状況について、取締役会へのフィードバックがなされているでしょうか？	4.20	0.40

レポートをWordでダウンロード

アンケートの分析結果はレポートとして
Wordでダウンロードしていただくことが可能です。

1. 実効性評価のレポートニング (分析)機能が拡充されました

質問一覧

平均値：高 平均値：低 | 標準偏差：大 標準偏差：小

質問		今回		前回
		平均値 表1	標準偏差 表2	平均値
1. 役割・機能				
1-1	機動的な業務執行の観点等から、各取締役や下位の会議体等に委任することが適切な事項は、委任されているでしょうか？	4.80	0.40	-
1-2	本来取締役会に上程することが適切であるものの、各取締役や下位の会議体等に委任されている事項はないでしょうか？	4.00	1.10	-
1-3	取締役会は、毎年、個別の政策保有株式について、保有に伴う便益やリスクが資本コストに見合っているか等の具体的検証を十分に行っているでしょうか？	3.60	1.36	-
1-4	取締役会は、経営戦略、経営計画の決定に当たっては、収益力・資本効率等を意識して、十分に議論を行っているでしょうか？	4.60	0.49	-
1-5	経営計画の進捗状況のフォローアップ（目標未達に終わった場合には、その原因等を十分に分析し、株主に説明を行うとともに、その分析を次期以降の計画に反映）を実施しているでしょうか？	3.60	1.36	-
1-6	取締役会は、経営戦略や経営計画が、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の創出にどのように整合しているかについて認識したうえで十分に議論を行っているでしょうか？	4.40	0.80	-
1-7	取締役会は、財務面・非財務面を問わず、会社が持続的な成長を実現できるようなKPIを適切に設定しているでしょうか？	4.80	0.40	-
1-8	取締役会は、経営戦略や経営計画の実行の過程で生じることが予想される、会社全体またはグループ全体における潜在的なリスクとその対処方法、危機管理体制等について十分に議論を行っているでしょうか？	4.20	0.98	-

出力①：質問毎の回答一覧

該当アンケートの質問一覧についての平均値と標準偏差が表示され、値の高低、偏差の大小がある場合、それぞれが色別で表示されます。

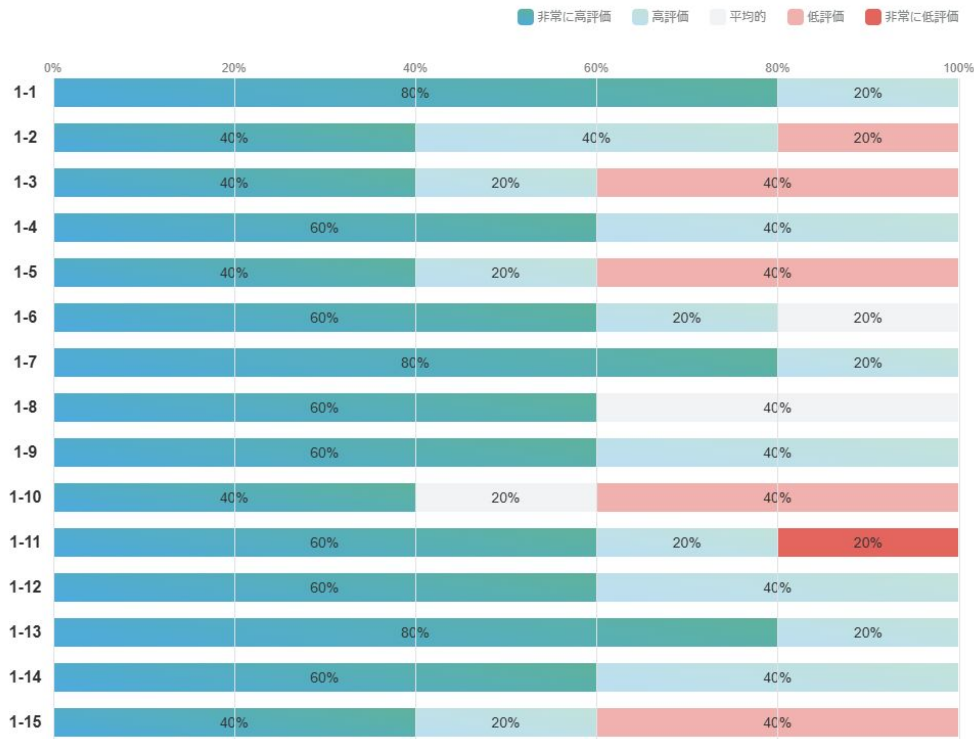
また、前回開催と同一の質問については平均値の比較を行うこともできます。

【標準偏差について】

平均値だけでなく、標準偏差を見ることで、同一の平均値の質問に対して点数のバラつきの有無から課題の発見に繋がっていただくことができます。

1. 実効性評価のレポートニング (分析)機能が拡充されました

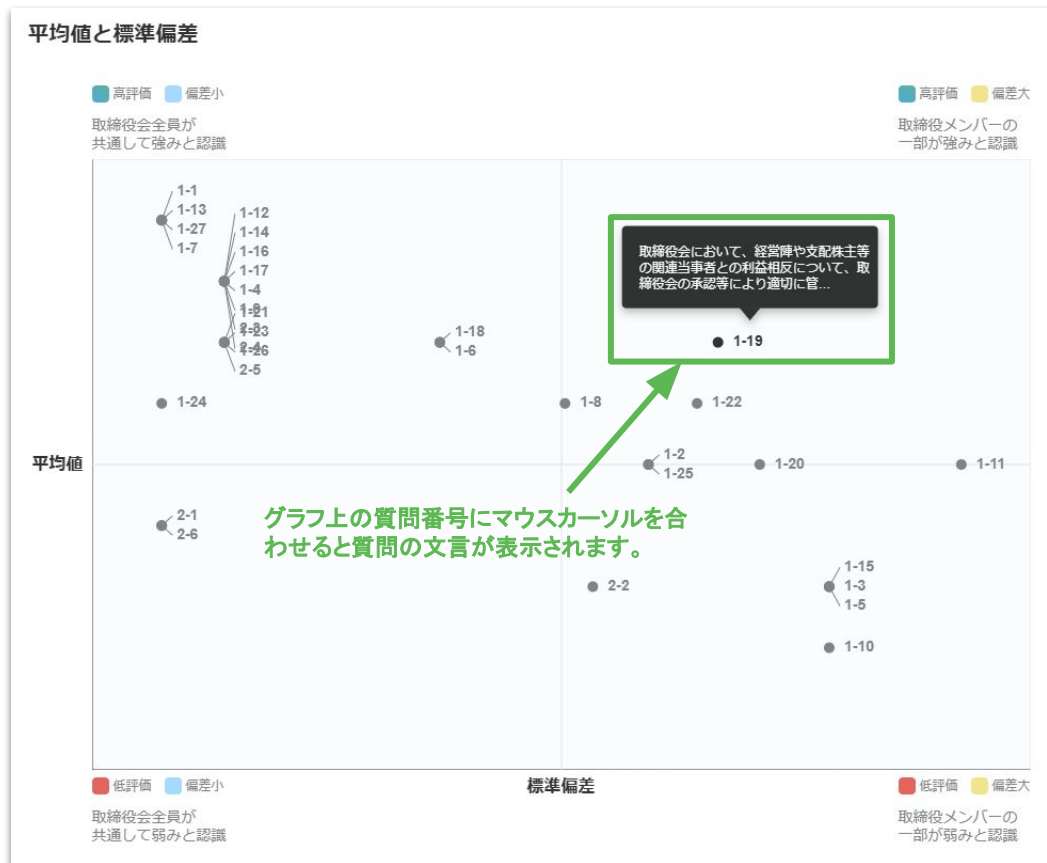
解答分布状況



出力②: 質問別の回答分布

該当アンケートの質問別の回答状況が、20%毎の区切りとして、『非常に高評価』から『非常に低評価』までの 5段階で一目でわかるように表示されます。

1. 実効性評価のレポートニング (分析)機能が拡充されました



出力③:『平均値x標準偏差』の 4象限グラフ

出力①の質問毎の回答一覧を『平均値x標準偏差』の4象限グラフで出力表示します。「平均は高いがバラつきが大きい(=メンバー間の認識ギャップが高い)」等、平均値だけでは見えてこなかった課題の抽出が可能になりました。

【4象限グラフの活用方法】

左上の群

⇒別角度の質問への一部切替を検討

右上の群

⇒次年度左上に設問が遷移するための対策を検討

など、グラフ全体の傾向を見ながら打ち手を考える事も可能です。

1. 実効性評価のレポートニング (分析)機能が拡充されました

低評価で認識が分かれる質問

	質問	平均値	標準偏差
1-10	取締役会は、会社全体またはグループ全体の事業ポートフォリオについて、その方針を定めるとともに持続的な収益性確保や資本コストの観点から、定期的に見直しを行っているのでしょうか？	3.40	1.36
1-3	取締役会は、毎年、個別の政策保有株式について、保有に伴う便益やリスクが資本コストに見合っているか等の具体的検証を十分にしているのでしょうか？	3.60	1.36
1-5	経営計画の進捗状況のフォローアップ（目標未達に終わった場合には、その原因等を十分に分析し、株主に説明を行うとともに、その分析を次期以降の計画に反映）を実施しているのでしょうか？	3.60	1.36
1-15	取締役会は、最高経営責任者等の後継者候補の育成が十分な時間と資源をかけて計画的に行われていくよう、適切に監督を行っているのでしょうか？	3.60	1.36
2-2	取締役会の構成員は、知識・経験・専門性・職歴・年齢・ジェンダー・国際性等の観点で多様性を備えたものとなっているのでしょうか？	3.60	1.02

高評価で認識が共通する質問

	質問	平均値	標準偏差
1-1	機動的な業務執行の観点等から、各取締役や下位の会議体等に委任することが適切な事項は、委任されているのでしょうか？	4.80	0.40
1-7	取締役会は、財務面・非財務面を問わず、会社が持続的な成長を実現できるようなKPIを適切に設定しているのでしょうか？	4.80	0.40
1-13	報酬の決定方針や報酬設計が過度なリスクテイクを促さない、適切なものとなっているのでしょうか？	4.80	0.40
1-27	総じて、取締役会は実効的に機能しているといえるのでしょうか？	4.80	0.40

出力④：評価別に認識が分かれる質問の回答状況

質問の回答状況として、低評価で認識が分かれる質問と高評価で認識が共通する質問がそれぞれピックアップして表示されます。

1. 実効性評価のレポートニング (分析)機能が拡充されました

社内役員と社外役員の比較

	質問	社内	社外	乖離
1. 役割・機能				
1-1	機動的な業務執行の観点等から、各取締役や下位の会議体等に委任することが適切な事項は、委任されているでしょうか？	2.00	2.00	0.00
1-2	本来取締役会上程することが適切であるものの、各取締役や下位の会議体等に委任されている事項はないでしょうか？	4.00	5.00	1.00
1-3	取締役会は、毎年、個別の政策保有株式について、保有に伴う便益やリスクが資本コストに見合っているか等の具体的検証を十分に行っているでしょうか？	4.00	2.00	2.00
1-4	取締役会は、経営戦略、経営計画の決定に当たっては、収益力・資本効率等を意識して、十分に議論を行っているでしょうか？	1.00	5.00	4.00
1-5	経営計画の進捗状況のフォローアップ（目標未達に終わった場合には、その原因等を十分に分析し、株主に説明を行うとともに、その分析を次期以降の計画に反映）を実施しているでしょうか？	3.00	4.00	1.00

出力⑤: 社内外で認識が分かれる質問の回答状況

社内役員と社外役員のそれぞれの回答状況が表示されます。

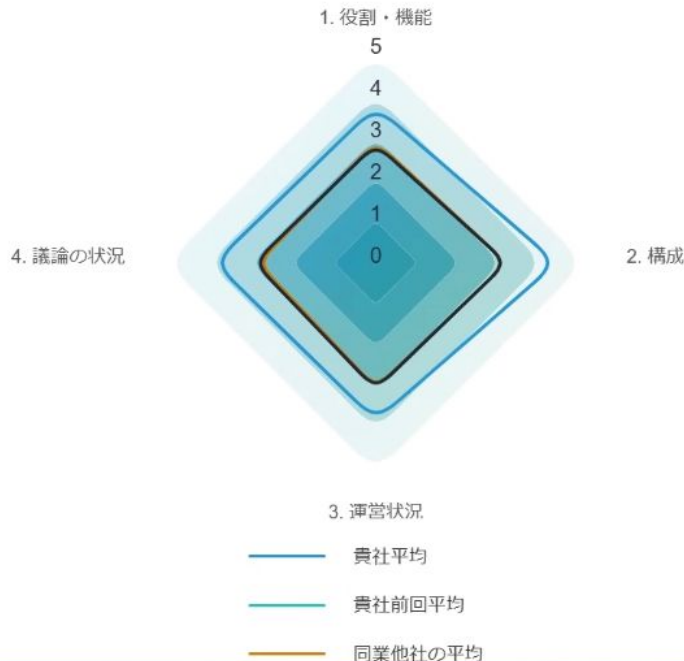
各質問毎に点数の乖離も表示されるため、

「社内役員は高評価だが、社外役員は低評価である」等の課題発見に繋げていただくことができます。

尚、こちらを表示させるには役職管理で社内/社外役員の設定が必要となりますので、必ず変更してからご対応いただくようご注意ください。

1. 実効性評価のレポートニング (分析)機能が拡充されました

項目別平均値の前回比較



出力⑤: 項目別平均値の前回比較

該当のアンケートについて、各項目毎に 5段階のチャートで表示がされます。

同一の項目については前年度との比較を行うことができます。

また、同業他社が同一の項目についての質問を行っている場合、同業他社の平均値との比較も行うことが可能です。